

産業廃棄物処理計画書	
平成24年6月26日	
大分県知事 殿	
提出者 住所 福岡県福岡市中央区渡辺通4-10-10 氏名 ㈱熊谷組九州支店 支店長 平島 司	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 092-721-0011	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 熊谷組九州支店
事業場の所在地	福岡県福岡市中央区渡辺通4丁目10番10号
計画期間	平成24年4月 ~ 平成25年3月
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06 総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高 (大分県内) : 2,381 百万円
③ 従業員数	161人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別添 図-1 廃棄物処理フロー図のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別添 図-2 建設副産物管理体制表のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成23年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t t
	(これまでに実施した取組) ・ISO14001に係る取り組みの中で廃棄物の適正処理に関する教育を行っている。 ・作業所業務においては協力業者を対象として新規入場時教育等により産業廃棄物の排出抑制ならびに分別の教育指導を行っている。 ・余剰資材の発生しない資材搬入管理を行う。 ・効率的な歩留まりを考慮した資材の発注を行う。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t t
	(今後実施する予定の取組) ・今後も現状の取組みを維持して行く。 別添 (参考資料) 熊谷組グループの環境保全活動	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・安定型産業廃棄物とそれ以外の廃棄物を分別する。 ・コンクリート破片、アスファルト・コンクリート破片、木くず、金属くず、紙くず(段ボール)については、分別を徹底する。 ・現場作業員の生活系廃棄物(生ゴミ、新聞などの一般廃棄物)は、直接工事から排出される廃棄物と分別する。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・今後も現状の取組みを維持して行く。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（平成23年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	
	t	t
（これまでに実施した取組） 特になし。		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	
	t	t
（今後実施する予定の取組） 特になし。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（平成23年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	
	t	t
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	
	t	t
（今後実施する予定の取組） 特になし。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（平成23年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	
	t t	
(これまでに実施した取組)		
特になし。		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	
	t t	
(今後実施する予定の取組)		
特になし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成23年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	全処理委託量	
	優良認定処理業者への処理委託量	
	再生利用業者への処理委託量	
	認定熱回収業者への処理委託量	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	
t t		
(これまでに実施した取組)		
・ 分別を徹底し混合廃棄物の発生を抑制する。 ・ アスファルトについては、再資源化施設を有する産業廃棄物処理業者に処理を委託する。 ・ コンクリートについては、自社にて再利用を促進するとともに、再利用できない場合は、再資源化施設を有する産業廃棄物処理業者に処理を委託する。 ・ 木くずについては、分別を徹底し、再資源化施設を有する産業廃棄物処理業者に処理を委託し、チップ化、堆肥化、固形燃料化などを行うことで		

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	
	優良認定処理業者への 処理委託量	t
	再生利用業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
(今後実施する予定の取組)		
・今後も現状の取組みを維持して行く。		
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

様式第二号の八(第八条の四の五関係別紙)

(第2面)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項																
①現状	【前年度(平成23年度)実績】															
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス及び陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	建設汚泥	木くず	紙くず	繊維くず	混合廃棄物他						
	排出量	12,481 t	28 t	186 t	4 t	129 t	513 t	6 t	1 t	49 t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】															
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス及び陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	建設汚泥	木くず	紙くず	繊維くず	混合廃棄物他						
	排出量	10,000 t	20 t	150 t	5 t	100 t	500 t	5 t	0 t	25 t	t	t	t	t	t	t

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項																
①現状	【前年度(平成23年度)実績】															
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス及び陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	建設汚泥	木くず	紙くず	繊維くず	混合廃棄物他						
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】															
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス及び陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	建設汚泥	木くず	紙くず	繊維くず	混合廃棄物他						
	自ら再生利用を行う量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

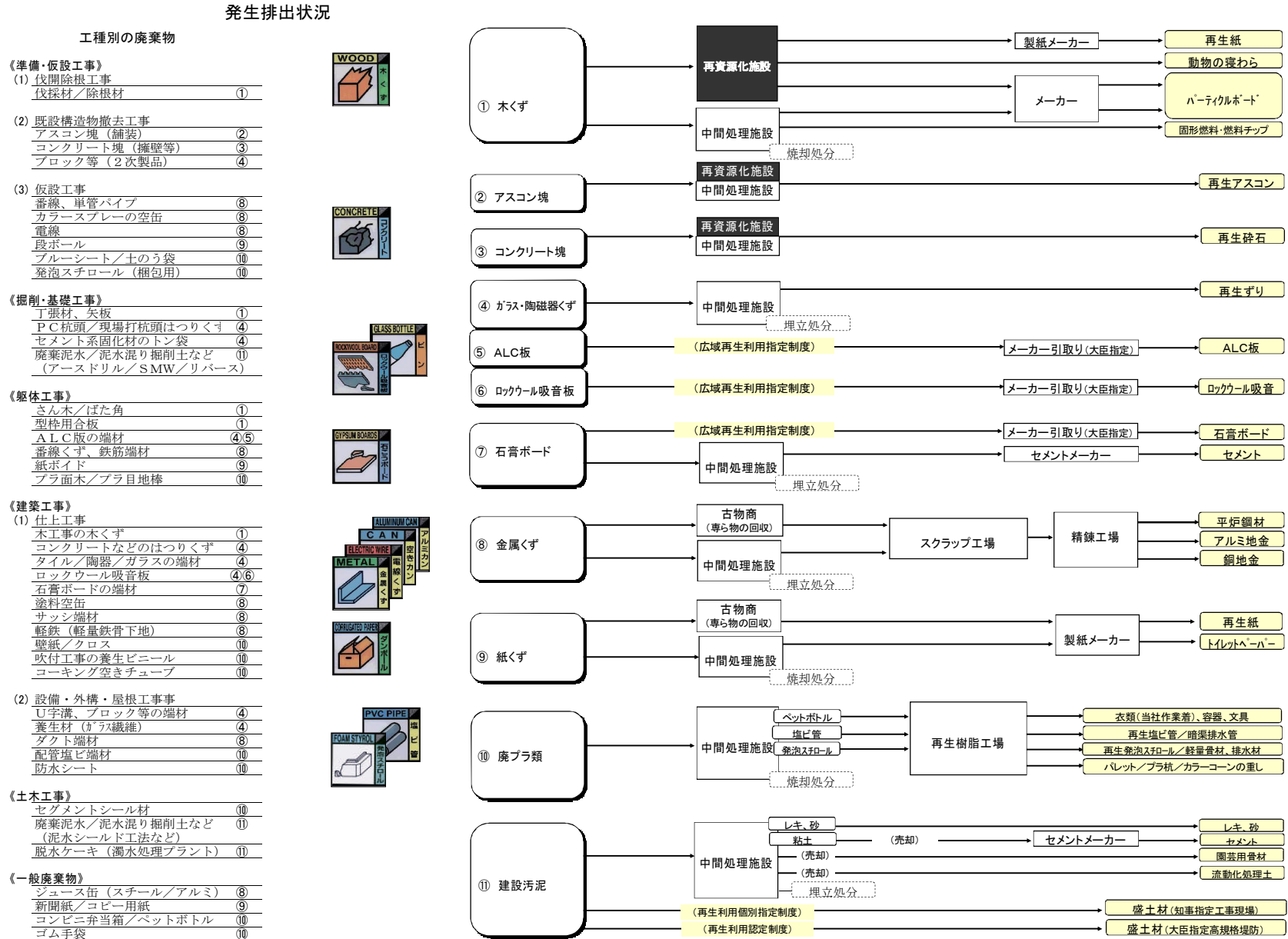
①現状	【前年度(平成23年度)実績】															
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス及び陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	建設汚泥	木くず	紙くず	繊維くず	混合廃棄物他						
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】															
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス及び陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	建設汚泥	木くず	紙くず	繊維くず	混合廃棄物他						
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t

様式第二号の八(第八条の四の五関係別紙)

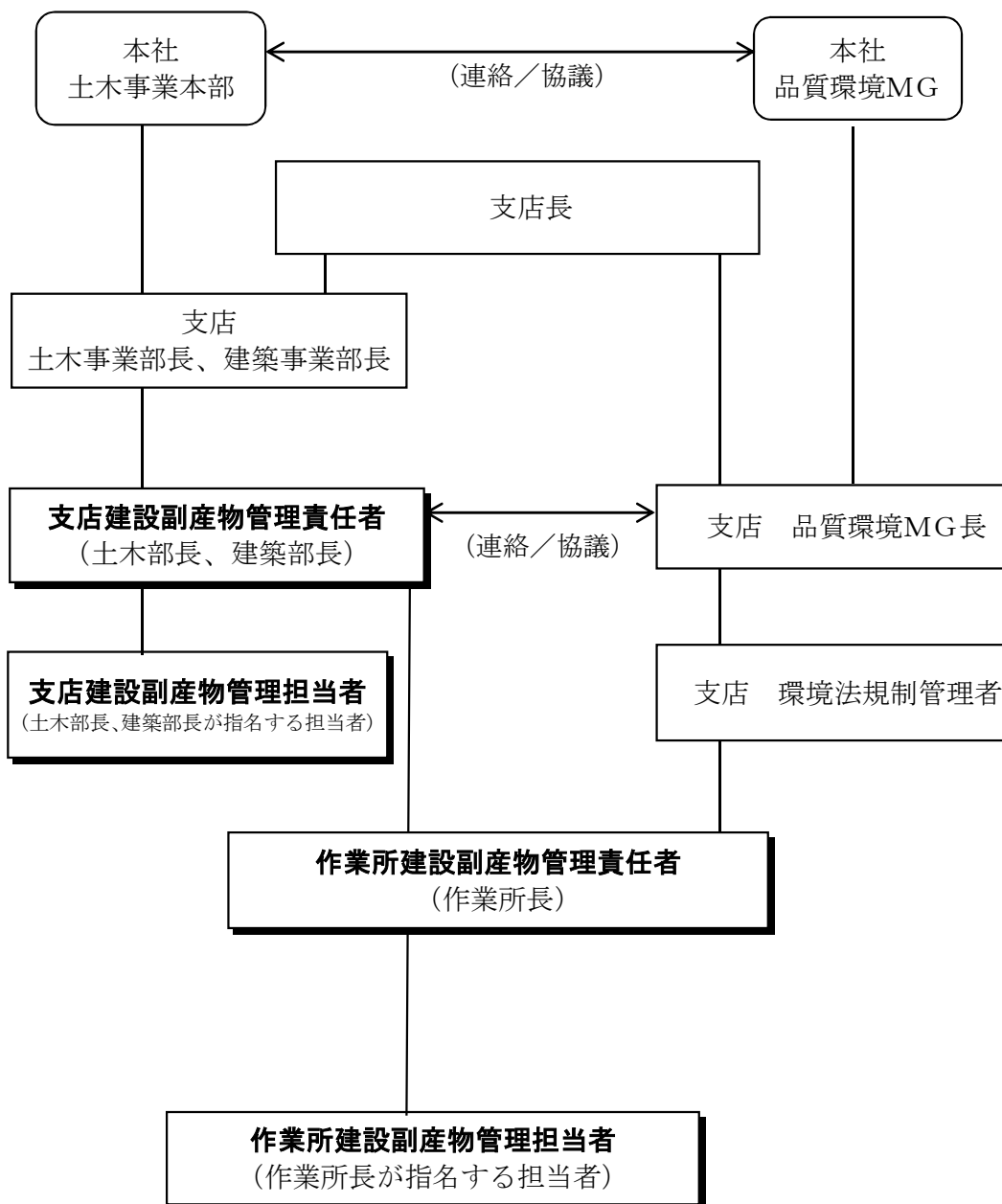
(第4・5面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項																
①現状	【前年度(平成23年度)実績】															
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス及び陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	建設汚泥	木くず	紙くず	繊維くず	混合廃棄物他						
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】															
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス及び陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	建設汚泥	木くず	紙くず	繊維くず	混合廃棄物他						
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項																
①現状	【前年度(平成23年度)実績】															
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス及び陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	建設汚泥	木くず	紙くず	繊維くず	混合廃棄物他						
	全処理委託量	12,481 t	28 t	186 t	4 t	129 t	513 t	6 t	1 t	49 t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	12,481 t	28 t	186 t	4 t	129 t	513 t	6 t	1 t	49 t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】															
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス及び陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	建設汚泥	木くず	紙くず	繊維くず	混合廃棄物他						
	全処理委託量	10,000 t	20 t	150 t	5 t	100 t	500 t	5 t	0 t	25 t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	10,000 t	20 t	150 t	5 t	100 t	500 t	5 t	0 t	25 t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t

図-1 廃棄物処理フロー図



【図－2】建設副産物管理体制表



環境保全の取り組み

環境理念・環境方針のもと、「熊谷組グループEアクションプラン」を策定。エコ・ファースト企業として美しい地球を次世代に継承することを経営課題の一つに掲げ、全力で環境保全活動に取り組んでいます。

※詳細な環境報告については、「環境報告書」のWEB版で公開します。
http://www.kumagagumi.co.jp/csr/kankyoga2011/2011ga.pdf

熊谷組 環境方針

環境理念

人間と地球を知り、過去と現在と未来を見つめ、美しい自然との調和を図りつつ、ゆとりと深いのある環境を創造する。

我々は、土木並びに建築分野の設計から施工、またアフターケアに至る業務に携わる企業として、今や地球の規模に及んでいる地球への影響に対して、持つべき技術と責任に発注し、努力し、環境への負荷を低減するとともに汚染の予防を図る必要がある。それは豊かで美しい地球を子孫に継承することが企業市民としての役割であり義務だからである。

以下に重点的に取り組む活動を示すとともに、それらについては目的および目標を特定し、実績に即すべく見直しを行う等、継続的改善に努める。

2010年4月1日改訂

重点実施事項

1-1 全体的な取組み

- 二酸化炭素排出の低減 : 地球温暖化の防止
- グリーン購入の推進 : 天然資源の保護
- 3Rの推進 : 廃棄物の削減
- 生物多様性配慮の推進 : 生態系保全を考慮
- 環境に配慮した技術開発 : 環境保全、自然共生、環境創造を考慮
- 環境に配慮した設計 : 建造物のライフサイクルを考慮
- 社会・環境貢献活動の推進 : 地域に密着した活動

1-2 本社固有の取組み

- 環境配慮技術の開発 : 持続可能な発展への寄与

1-3 支店固有の取組み

支店固有の取組みは、「環境行動計画表(支店共通)」に示す

2 環境法規制等の遵守

環境に関わる法規制および同意するその他の要求事項の遵守

熊谷組グループ Eアクションプラン (第4版・骨子)

我々は「環境理念」の精神を自身のものとし、「環境方針」を達成するための行動を共通認識のもとで日々実行することにより、地球環境を保全し、更にはお客様に感動いただける企業形成を早急に実施する。これが熊谷組グループが目指す「環境ナンバー1」の姿である。この実現に向け3つのプランを実行する。 2010年4月1日

プランI 環境経営の確立

1. 経営と環境の結びつきの強化

2. 熊谷組グループ全体のFMS体制の強化

3. リスク管理体制の強化

(2) 長期ビジョンの策定

1. 地球温暖化防止対策 (1990年度比)

(2020年度目標)

CO₂排出量: 出率高あたり50%、総量87%削減 (2050年度目標)

CO₂排出量: 出率高あたり80%、総量95%削減

2. 循環型社会の構築 (2020年度目標)

全ての作業所でゼロエミッション(当社自主基準)を達成

3. グリーン購入の推進 (2020年度目標)

グリーン購入率: 土木 21%以上/建築 15%以上

4. 生物多様性への配慮

5. 環境製菓の提供

環境配慮型技術開発の推進: 技術の開発、適用30件以上

プランII 社員の環境モラルの向上

(1) 環境教育の徹底/工夫による全社員の環境意識の向上

(2) 経営層自ら環境保全/社会貢献に向けた行動の徹底

(3) 環境に関する社内制度の充実

プランIII 環境技術の保有

(1) お客様に書かれる低コストで環境配慮が実現できる独自の技術開発

(2) 開発した環境技術の普及

(3) お客様に書かれる環境配慮設計の推進

※2011年度も上記「熊谷組環境方針、熊谷組グループEアクションプラン」を継続して推進しています。

熊谷組の「エコ・ファーストの約束」

2010年5月31日、熊谷組は建設業界で初めて「E・ファースト企業」に認定されました。

「E・ファースト制度」とは、2008年4月に環境省が創設した「業界のトップランナー企業」の環境保全に関する行動を更に促進していくための、企業が環境大臣に対し、京都議定書の目標達成に向けた地球温暖化対策など、自らの環境保全に際する取り組みを約束する制度です。

1. 建設事業を通じて「低炭素社会」の構築を推進します。
2. 工事現場において「循環型社会」の形成を推進します。
3. 「自然共生社会」を目指し、生物多様性に配慮した取組みを推進します。
4. 「持続可能な社会」の実現のためにグリーン購入を推進します。
5. 環境に配慮した技術、手法の開発、改良、普及に努めます。
6. 地域社会の環境保全活動に積極的に参加します。
7. 環境情報を積極的に開示し、コミュニケーションに努めます。

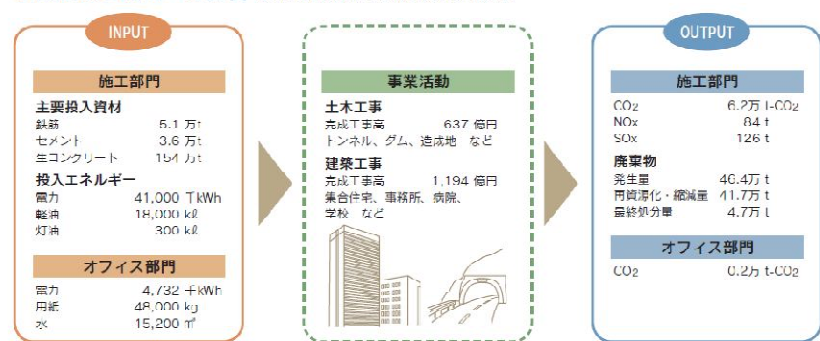
2010年度環境目標と実績評価および2011年度目標

(詳細はWEB版「環境報告書」をご覧ください)
[評価] ○:達成 ×:未達成 -:現状把握中のため評価対象外

項目	環境目的	2010年度		評価	2011年度目標	
		目標	実績			
設計	評価性のある環境配慮設計の推進	1) CASBEE評価の実施: 実施率100%	1) 実施率100%	○	1) CASBEE評価の実施: 実施率100%	
		2) CASBEE-DRの実施: 実施率100%	2) 実施率100%	○	2) CASBEE-DRの実施: 実施率100%	
		3) Aランク評価: 対象物件の45%以上(当社)	3) Aランク評価: 61%	○	3) Aランク評価: 対象物件の60%以上(当社)	
		4) DCC値2.5以上: 対象物件の5%以上(当社)	4) DCC値2.5以上: 0%	×	4) DCC値2.0以上: 対象物件の10%以上(当社)	
施工	CO ₂ 排出の削減	土木	48.8 t CO ₂ /億円以下	64.2 t CO ₂ /億円	×	47.8 t CO ₂ /億円以下
		建築	12.5 t CO ₂ /億円以下	15.5 t CO ₂ /億円	×	12.2 t CO ₂ /億円以下
	混合廃棄物発生量の削減<ゼロミッションの推進>	土木	1.39 t/億円以下	1.27 t/億円	○	1.1 t/億円以下
		建築	7.65 kg/m ² 以下	6.25 kg/m ²	○	7.32 kg/m ² 以下
	グリーン購入の推進	土木	グリーン購入率*1 16.0%以上	12.8%	×	18.5%以上
		建築	グリーン購入率*1 10.0%以上	8.8%	×	10.5%以上
	生物多様性配慮の推進	土木	・チェックリストによる現状把握 ・良好事例の収集、展開	・チェックリストによる現状把握 ・良好事例の収集、展開	-	・チェックリストによる現状把握 ・良好事例の収集、展開
		建築	・チェックリストによる現状把握 ・良好事例の収集、展開	・チェックリストによる現状把握 ・良好事例の収集、展開	-	・チェックリストによる現状把握 ・良好事例の収集、展開
	オフィス	CO ₂ 排出の削減(電気使用量の削減)	2009年度の2%減(4,876千kWh以下)	4,732千kWh	○	2010年度実績の7.6%減
		グリーン購入の推進	文房具のグリーン購入率*1 95%以上	92.6%	×	95%以上
環境社会貢献活動の推進		環境社会貢献活動の実施/参加回/年以上	12回/年	○	2回/年以上	

[未達項目] CO₂排出の削減(土木): ダム工事が最盛期を迎え重機を多く使用したこと、全般的に建設発生土などの運搬距離の増加が影響し目標値を超過した。
*1 グリーン購入率: [施工] 工事未着1億円、占めるグリーン調達品購入費の割合、[オフィス] 文房具購入費、占める環境に配慮した文房具の購入費の割合

事業活動と環境への影響



「環境経営度調査」で総合建設業5位

環境経営度は、温暖化ガスや廃棄物の削減などの環境対策と経営効率の向上をいかに両立しているかを総合的に評価したものです。環境経営度調査は、「環境経営推進体制」「汚染対策・生物多様性対応」「資源循環」「製品対策」「温暖化対策」の5つの項目についての各社回答に基づき、日本経済新聞社が評価を行っています。

熊谷組グループの総合建設業におけるランキング



熊谷組グループの環境保全活動

熊谷組グループの環境保全活動は、計画(Plan)、実行(Do)、確認・点検(Check)、見直し・改善(Action)に沿って進めています。

計画 Plan

Eアクションプラン (p23)
環境方針 (p23)
目標値 (p24)

指示事項に対する改善計画の事例

目標未達時のコスト面への影響の意識
内部環境監査時の徹底チェック
建物のエネルギー消費量の削減効果確認

見直し・改善 Action

経営者による改善指示事項
(マネジメントレビュー)

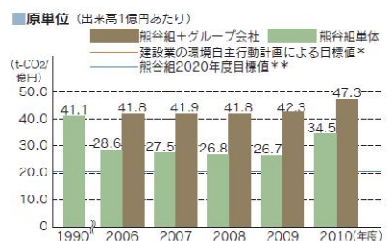
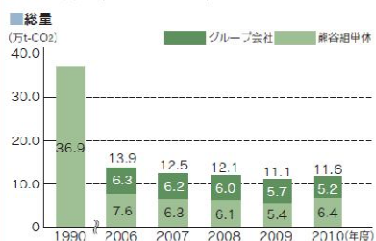
目標未達原因の追究と経営とのつながりの意識
環境保全意識の低い作業所への指導
建物の環境性能の効果の検証

確認・点検 Check

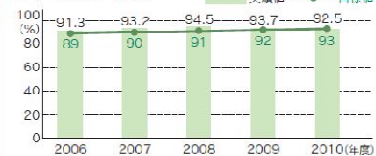
環境実績

●CASBEE評価 2010年度：評価件数27件、うちAランク14件(取得率51%)、B+ランク13件(B+以上取得率100%)、全体平均PFI=1.40

●CO2排出量(施工+オフィス)



●リサイクル率(施工)



●グリーン購入率(施工)(出来高1億円あたり)



*2012年度：13%削減(1996年要比)。熊谷組全体の割合35.71t-CO2/億円

**20.5t-CO2/億円(熊谷組グループEアクションプランより算出)

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞受賞

2010年度は3R推進協議会より会長賞を7件受賞。また、グループ会社の(株)ガイア T-T-Kも1件受賞しました。

カントリー中野ビル作業所/IFMIF作業所/臨海作業所/徳山中丸病院作業所/新口鶴田知社作業所/小千谷小学校作業所/ガイアート・K福井倉庫工場/

[J/Vサノ現場] 第二京東高速道路臨海第一トンネル



表彰式(2010年10月26日)

実行 Do

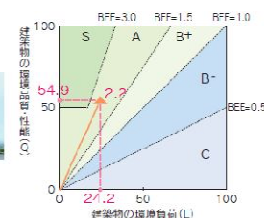
設計の取り組み

CASBEE評価を用いた環境配慮設計のさらなる向上と継続を目指して

熊谷組設計部門は、すべての物件に対してCASBEE評価を導入しています。第三者的な評価軸を持ったCASBEE評価を実施することにより、環境配慮設計に対する評価と取り組みをより明確にするとともに継続して取り組むことを目的としています。

2011年度目標としては、評価物件の60%以上を「Aランク(BEE値1.5以上)」、評価物件の10%以上を「BEE値2.0以上」とし、ポトムアップを踏まえさらなるレベルアップを目指しています。

【事例】リストレジアンス藤が丘B計画
BEE値=54.9/24.2=2.2



CASBEEとは

建築物の総合環境性能評価システム(Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency)のことで、環境効率という概念を、建築物の環境性能効率率へ充ちさせたものです。建築物の環境品質・性能(Q)と建築物の環境負荷(L)の比(BEQ=L/Q)で表し、「S(素晴らしい)」「A(良い)」「B+(やや劣る)」「B(劣る)」の5ランクで評価します。

施工の取り組み

【CO2排出削減】

- ・省燃費運転の推進
- ・省燃費運転実施状況の確認



省燃費運転研修(見学)

【廃棄物削減】

- ・分別の徹底
- ・ゼロ・ミッションモデル現場の選定と実施
- 【生物多様性配慮の推進】
- ・現場での生物多様性への影響のチェックリストによる現状把握
- ・生物多様性保全意識啓発ポスターの作成、掲示
- ・良好な取り組み事例の展開による啓発

- 【グリーン購入の推進】
- ・リサイクル製品など環境配慮された建設資材の購入

オフィスでの活動

【CO2排出削減】

- ・不要な電気の消灯

【グリーン購入の推進】

- ・環境に配慮した文具具購入の推進
- 【環境・社会貢献活動の実施】
- ・事業所周辺の清掃活動
- ・環境教育
- ・節電作業 など

環境教育

【環境講演会】

毎月、毎月(6月)には、外部から講師をお招きして環境講演会を実施しています。この講演会は全国の支店、営業所にテレビ中継を行い、全国の社員が視聴しています。

本社ビルが「平成22年度エネルギー管理優良事業者等最優秀賞」を受賞

この賞は毎年2月(省エネルギー月間)に、関東地区電気使用合理化委員会が関東一都七県の工場や事業場を対象に、省エネルギーの推進や電力の有効活用に関する実績をあげた工場・事業場を表彰するもので、2010年度は80社(省)が受賞しました。

賞金は過去2年間の使用電力の累積値に加え、組織運営、電力管理、設備管理、効率化対策などについての採点方式によって行われ、当社は社員一人ひとりの地道な省エネ活動が高得点を獲得し、建設業で唯一の受賞者となりました。



賞状と盾を手にする管理本部五十川安副部長(左)と浦田憲一課長

エコ・ファースト認定企業同士のコラボレーション活動

熊谷組は、2010年6月31日に建設業界で初めて「エコ・ファースト企業」に認定されました。エコ・ファースト企業として、環境先進企業同士がそれぞれ保有する環境商品(技術)をプレゼンすることによる相乗効果と、また相互の抱える課題について協働で何かできればと考え、熊谷組を含めた建設関連のエコ・ファースト企業/社によるコラボレーション会議を2010年10月7日に熊谷組本社で開催しました。これをきっかけに各社との新しい技術や資材についての具体的な情報交換がスタートしています。



コラボレーション会議(2010年10月7日)

台北市(台湾)で緑化美化運動環境表彰を連続受賞!

恒裕仁帯断作作業者(重機管造股份有限公司)が台北市環境局主催による緑化美化運動、環境表彰賞を受賞しました。この賞は台北市環境局が台北市内の全現場に義務づけられた仮囲い緑化の中で、特に優れていた現場に対し表彰するもので、当作業所は昨年にも続いての受賞です。



受賞作業所を紹介する台北市発行のパンフレット